

3 指導の実際

(1) 「一番好きなおやつは何？」(第5学年)

- ・アクティビティに「Show & Tell」を設定
- ・テキストを活用してコミュニケーション活動を実施

5年生(The 5 th grade)指導案				
テーマ：一番好きなおやつは何？ Exercise 2				
<本時の目標> 友達と協力してスピーチの練習をし、自信をもって発表することができる。友達の発表を聞き、相手の思いを理解しようすることができる。				
Procedure 進め方	Activities			
	Students	JTE / ALT	HRT	Classroom English
Greetings 5分	英語であいさつをする。 簡単な質問に答える。	Ask some questions for reviewing last year.	HRTも質問をしてみる。	How are you doing? Let's start today's lesson.
Game time Game for fun 5分	ウォーミングアップ	Introduce new words, p10-11 CD 1 of バナナじゃなくくて banana チャンツ	児童と一緒に歌う。	
Oral Practice Time Show & Tell 20分	定型表現でスピーチを行う。 Hi! My name is ~. I like jelly. I like cake. But my favorite snack is potato chips. Thank you. 全体→グループ→個でスピーチを発表する。	What's the title? What's the question? What's the answer? Introduce new words, p10-11. So make speeches in pairs, then in groups.	This is Me! p.8-11 JTE / ALT は Speech のデモをする。 代表は隣のグループに移動して発表するよう伝える。	Please listen what JTE/ALT says. Watch and copy us. I like your smile. I like your gesture. I like your voice. You did a good job.
Oral Practice Time Phonics 10分	フォニックスアルファベットに親しむ	Show your mouth, teeth and tongue and say the alphabet clearly. Introduce the phonics alphabet. Provide some games.		
Game for input	フォニックスを使ったゲームをする。			
おわりのあいさつ 5分	活動の振り返りをする。		英語活動の注意点を確認する。	

この単元では明確な目的意識をもって単元に取り組めるよう、自分の好きなおやつについて全員の前で発表する「Show & Tell」を設定した。「Show & Tell」を行うにあたっては、発表する内容や会話表現に自信をもたせておく必要がある。そこで、単元の前半には中心となる会話文の練習をチャンツにあわせて行い、インプットの時間を十分に確保した。また、ペアで発表する練習も取り入れ、より一層の定着を図った。

そして単元の後半で発表する際には、これまでの学習で積み重ねてきた内容を用いて、発表を組み立てることにした。子どもたちは、テキストに示された例文を基に、自分の発表する内容を考え、その内容をテキストに記述し、以下の

【一番好きなおやつは何？(4時間目)】

ような紹介文を作成していった。中には、これまでの会話表現を付け加えてスピーチを弾ませようとする者もいた。また、お菓子の袋をテキストに貼り付け、その袋を見せながら発表することにした。

子どもたちは、テキストを利用することで、会話表現に自信をもつことができ、発表方法についても工夫しようとする姿が見られた。

A児の紹介文

Hi! My name is Akira. I like jelly. I like cake.
But my favorite snack is potato chips. Thank you.



【友達に発表】

実際の発表では、最後に一番好きなものを紹介する際、「But」の音を強調し、自分の思いをこめて相手に伝えようとする姿が見られた。そのことによって、音の強弱によって伝わり方に違いがあることに気付くことができた。また、自分の好きなお菓子の袋を利用して発表することで、実物を用いるとより効果的に伝わるということを実感することができたようであった。

(2)「オリジナルサラダを作ろう」(第6学年)

- ・ 双方向のコミュニケーション活動が可能な会話表現に変更
- ・ 会話表現を活用してアクティビティに取り組むことができる指導体制の工夫

6年生(The 6th grade)指導案				
テーマ: オリジナルサラダを作ろう Exercise 2				
<本時の目標> 覚えた定型表現や会話表現を使って, オリジナルサラダを紹介することができる。				
Procedure 進め方	Activities			
	Students	JTE / ALT	HRT	Classroom English
Greetings 5分	英語であいさつをする。 簡単な質問に答える。	Ask some questions for reviewing last year.	HRTも質問をしてみる。	How are you doing?
自己表現 Speech 5分	今まで習った定型表現を使って友達同士でスピーチをする。	So review the expression, and then they make a speech in pairs.	This is Me! p.1-13 JTE / ALTは	Let's start today's lesson.
Oral Practice Time Chants Activities 10分	A: Do you like salad? B: Yes, I do. It's yummy. No, I don't. It's yucky. A: What's your favorite vegetable? B: I like carrots B: Do you like carrots? A: Yes, I do. / No, I don't.	ALT / JTE introduce the name of vegetables, and then introduce new expressions. ALT / JTE prepare some games or activities according to the theme.	Speechのデモをする。 JTE / ALT shows the demonstration of the skit. 7分間の紹介を行う。	Please listen what JTE/ALT says. Watch and copy us. I like your smile. I like your gesture. I like your voice.
Oral Practice Time Phonics 10分	フォニックスアルファベットに親しむ。 短母音を言う。	Show your mouth, teeth and tongue and say the alphabet clearly. Introduce the short vowels.		You did a good job.
おわりのあいさつ 5分	活動の振り返りをする。		英語活動の注意点などを確認する。	

【オリジナルサラダを作ろう(4時間目)】

この単元では、いくつかの野菜の中から自分の好きな野菜を選び、オリジナルサラダを作って友達に紹介するアクティビティを設定した。また、会話表現も双方向のコミュニケーションが可能になるよう変更し実践を行った。

授業ではまず、会話表現の確実な定着を図るため、リズムに合わせて練習を繰り返したり、音楽を用いて練習したりと、子どもの興味・関心が持続し、会話表現の定着が図られるようにした。また練習の形態も「ALT (JTE) とHRTのデモンストレーション」「ALT (JTE) の後に続けて練習」「クラスを半分に分けて練習」「ペアで練習」「みんなの前で発表」と、スモールステップでの練習の場を設定し、会話表現が確実に定着した上で、みんなの前で紹

介できるようにした。

オリジナルサラダを紹介し合う場面では、右のように、予め双方向のコミュニケーションが可能な会話表現を設定していたため、自分のサラダを紹介だけでなく、好きな理由を答えたり、相手の意志を確かめたりできた。このことで、自分のことをただ一方的に伝えるのではなく、より相手のことも意識をしながらコミュニケーション活動を展開することができた。

A 児: "Hi!"
B 児: "Hi!"
A 児: "Do you like salad?"
B 児: "Yes, I do. It's yummy."
A 児: "What's your favorite vegetable?"
B 児: "I like lettuce."
"Do you like lettuce?"
A 児: "Yes, I do. It's juicy."
B 児: "Bye!"
A 児: "Bye!"

また、相手の意志を尋ねたり、自分の理由を説明したりする際には、言葉だけでなくジェスチャー等も使いながら伝え合おうとする場面が見られた。双方向の会話表現が設定されていることに併せて、スモールステップでの練習に取り組んだことで英語での表現に自信がもて、ジェスチャー等の非言語的なコミュニケーションの効果にも目を向けることができたようであった。



【サラダについて紹介する場面】

4 成果と課題

(1) 実践を通しての成果

授業におけるコミュニケーション活動の改善をとおして

アクティビティをより実際の場に即したものにすることで、学習した会話表現を活用しようとする場が設定され、そのことが会話表現の定着にもつながっていった。

会話文をより日常的に用いられている内容に変更することで、双方向のコミュニケーション活動が生まれ、相手の話をよく聞いて理解したり、自分の思いを相手に伝えようとしたりする姿が見られた。

コミュニケーション活動を促す指導体制の充実

ALT・JTE・HRTで指導体制の共通理解を図り、HRTの役割を明確にすることができた。このことにより、授業の中でコミュニケーション活動が行いやすいような雰囲気を作ったり、モデルを示したりすることができ、英語に対して不安な子どもが少なくなり、相手意識をもった活動が行われるようになった。

コミュニケーション活動への興味・関心が喚起できる教材・教具の開発

具体的な教材が示されることで、子どものモチベーションを向上させることができ、有意義なコミュニケーション活動が展開できた。

テキストを用いることで、既習の会話表現を組み合わせる等、子どもたちは学習の積み重ねを実感することができた。

(2) 課題と今後の方向性

コミュニケーション能力の育成を重点に置き、会話文や単語量の精選を行ってきたものの、その会話表現や単語量をはたして設定した学年に応じたものであったかどうか明らかにすることはできなかった。今後は発達段階を踏まえた、会話表現の設定や単語量についても見直しを行っていきたい。また、文字を書くことに興味をもっている子どもが多く、今後の文字の取り扱いについても検討する必要がある。

来年度から使用される「英語ノート」についても、どのように本校の英語活動に活用できるか、検討していく必要がある。

外国語活動の授業において、授業の雰囲気作りや、抵抗感をなくす意味でも、HRTの重要性が増してきている。今後、どのようにHRTの役割を考えていくか、さらに、検討していく必要がある。